

道路舗装現場で試行

大成ロテック 従来機と同等の性能確認

大成ロテックは大成建設の協力の下、道路舗装工事で電動建設機械（転圧機械）の試行を行った。環境省が進める電動建設機の普及施策のモデルケース構築に寄与する取り組み。道路舗装用の電動転圧機械5機種について、現場での実用性を確かめるのが目的。試行の結果、各機種の転圧能力が従来機とほぼ同等の性能を持つことや、施工時の二酸化炭素（CO₂）排出量の削減効果を確認した。

▽電動タイヤローラーTZ701ニシオ改（西尾レントオール）▽電動ハンドガイドローラーHV620evo（酒井重工業）▽電動ハンドガイドローラーMRH1e503（三笠産業）の5機種。いずれもバッテリーによる電力を使用した。系統電源のない工事区域

試行は発注者の東日本高速道路会社の協力を得て、大成ロテックが施工する首都圏中央連絡自動車道成田舗装工事の現場で実施。期間は11月14～28日。使用した電動転圧機械は▽電動コンバインドローラーTW504evo（酒井重工業）▽同TW354evo（同）

実現場での試行の様子（報道発表資料から）



では、バッテリー充電用の発電機燃料に、環境配慮型燃料「RD40」（バイオデリーゼル燃料由来）を採用。環境負荷の低減にも配慮した。

大成建設グループは今後も建設機械メーカー各社と連携し、建設現場でのゼロカーボン実現に向け取り組みを推進していく。